

令和元年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立中原小学校

●全国学力学習状況調査（小学校第6学年・中学校第3学年）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	調査の内容と結果について、分かったことを整理して書く。	32.80%	全体は都の平均より9ポイント、全国の平均より10.2ポイント高かった。正答率が80%を超える問題が14問中5問あった。「読む能力」についての問題が、いずれも80%を超えており、正答率が高かった。	「分かったことをまとめて書く」という、記述式の問題の正答率が低かった。自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことが苦手である。根拠を明確にして説明する力を付けられるような指導を積み重ねていく。
	報告する文章を読み、空欄に当てはまる熟語を考えて書く。	61.80%		
	報告する文章を読み、空欄に当てはまる熟語を考えて書く。	55.00%		
算数・数学	減法の計算の仕方を基に、除法の計算の仕方をまとめて書く。	37.40%	全体は都の平均より6ポイント、全国の平均より9.4ポイント高かった。正答率が90%を超える問題が14問中5問あった。図形の問題（96.9%）とグラフの読み取りの問題（95.4%）の正答率が特に高かった。	減法の計算を基に除法に関して成り立つ性質を記述する問題や除法の式の意味を問う問題で正答率が低かった。除法の式の意味を考えさせるようなアプローチを今後、取り組んでいく。
	1800÷6は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ。	45.00%		
	面積をどのように求めているか、数や演算の内容に着目して書く。	58.00%		
理科				

●児童・生徒の学力向上を図るための調査（小学校第5学年・中学校第2学年）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	文の中の主語と述語について着目して読む。	30.40%	「漢字の読み」、「読む能力」、「書く能力」では、3択ないし4択の中から選ぶ問題の正答率が85%以上であり、理解度や意欲が高い。	文の中の主語と述語を選ぶ問題の正答率は30.40%で低かった。また、文中の修飾語がどの語句を詳しく説明しているかを選ぶ問題の正答率が40.80%と低く、語句と語句や文と文のつながりに注意して文章を読み取ることに課題がある。
	文の中で修飾語と被修飾語に着目して読む。	40.80%		
	手紙の後付けの書き方で正しいものを選ぶ。	45.60%		
社会	自分たちの住んでいる区市町村の位置について答える。	28.60%	東京都の土地の高さと利用のされ方については98.4%の児童が正解していた。東京都の土地は東側が低く、西側が高いと理解している児童が多くいることが分かった。	知識・理解に関する内容では、自分たちの住んでいる市の位置についての問題の正答率が28.6%と低い。観察・資料活用の技能に関する内容では、正答率が40.5%と低く、普段の授業から資料の活用をしていくことが必要である。
	110番通報のしくみについて資料の図から理解する。	40.50%		
	ごみと資源の流れについて理解する。	49.20%		
算数・数学	地図に示された2つの行き方をコンパスで写し取り、長さを調べる。	33.30%	評価の3観点とも正答率が都平均より1.3～1.6%高い。整数を1/10にした数を求める問題と整数を3倍した数を求める問題は89.7%の児童が正解していた。	コンパスや分度器などの器具を使った問題や面積を求める問題、四角形の特徴を答える問題など図形についての問題の正答率が低かった。器具に触れる機会を増やし、興味や関心を高めていく。
	2本の直線で作られた外側に位置する角Aの大きさを調べる。	38.10%		
	メモをもとに表に数を埋める。	38.10%		
理科	回路のつながり方の違いについて考える。（素材）	15.9%	「正しいはかりの使い方」を選ぶ問題の正答率が96.0%で理解している割合が高い。「ソメイヨシノの観察」についての問題も81.7%と、理解している割合が高かった。	「観察・実験の技能」についての問題は正答率が高かった。「自然事象についての知識・理解」についての問題に対する基本的な技能の習得に課題があった。体験したことは身に付いているようなので、実験や観察などの体験活動の機会を増やしていく。
	回路のつながり方の違いについて考える。（直列、並列）	27.8%		
	水が100℃近くになったときにでる泡は何かを答える。	31.0%		
外国語 ※中学校のみ				